

ROB 療法と ROB 療法にもとづく生活処方の効果



○「上腹部の柔軟性」が生まれる（横隔膜の上下動の幅が大きくなる）



○「入り出」がスムーズとなる（呼吸・肺血管床からの動脈血・静脈還流量の増大、取り入れ・消化・吸収・排泄の亢進など）



呼吸が深くなる
循環が旺盛となる
人体力学が安定する
自律神経の切り替えがはやくなる
内臓全般の動きがおおきくなる



- ①生きる力がつく———生き方が身につく
- ②総合的免疫力がつく———予防ができる
- ③自然治癒力がうまれる———適確な治療
- ④残された機能でバランス力がつく——自然なケア
- ⑤自然な死にゆく流れに———大往生



生きる力がつき、そのことが総合的免疫力となり予防につながります。

病気になってしまった人にとっては、自然な治癒力となるので適確で副作用のほとんどない治療となります。

残された機能でバランスがととのうので、まるで一個のボールのようにその人なりのバランスがとれます。その人にとって個別で自然なケアとなります。

「からだ」の「しくみ」にもとづいた自然な死にゆく流れができるので大往生となります。



- セルフケアができる——— 全ての人・全ての職業人に
- 予防ができる——— 医師・看護師などのコメディカルに
- 病気の治療に幅ができる—— 医師・看護師などのコメディカルに
- 自然なケアができる——— 医師・看護師・介護士・自宅介護者に
- 大往生の看取りができる—— 医師・看護師・介護士・自宅介護者に